

# 国際政治学

## 講義2

### 国際システムと歴史的成り立ち

早稲田大学  
政治経済学術院  
栗崎周平

# 今日の議論の基本骨格

“It is a capital mistake to theorize before one has data. Insensibly one begins to twist facts to suit theories, instead of theories to suit facts.”

--- Holmes to Watson,  
*A Scandal in Bohemia*  
(ボヘミアの醜聞)  
by Arthur Conan Doyle



# 今日の議論の基本骨格

- 現代の国際システムの起源はヨーロッパシステム
  - アナーキーとしての国際システム
  - 主権国家システム
  - ウェストファリア条約
- 国際システムの歴史的成り立ちは、ヨーロッパシステムの拡大とグローバル規模規格化の歴史
  - グローバル化は、現代国際システムの遺伝子に内包

# 近代国際システムの歴史：15分 時代区分と紛争と協調のパターン

- 各時代ごとに特有な紛争と協調のパターン
  - 各時代に特有の問題は、主要な国際問題を生む
  - 発明・発見と技術革新による経済の変化
  - 紛争は経済活動への制約条件
- 時代区分
  - 重商主義・帝国・植民地獲得競争・封建制
  - 欧州協調
  - 世界大戦
  - 冷戦
  - 冷戦以後

# 近代国際システムの歴史:15分 重商主義の時代 〈1492~1815〉

- 欧州の絶対王政による地域外への征服
  - 国内の統一(征服)が一通り完了
  - 軍事技術、運搬手段などが征服を後押し
  - トルデシヤス条約(1494年)
- 欧州が軍事力・経済力のセンターとなる
  - 重商主義と植民地支配(帝国支配)
  - 軍産複合体
  - 植民地征服 ⇒ 資本蓄積 ⇒ さらなる征服
  - 「貿易」は限定的

- グローバリゼーションは、どの時代においても常に起こっている力

# 近代国際システムの歴史:15分 重商主義の時代 〈1492~1815〉

- 30年戦争とウェストファリア条約
  - 1618ー1648年
  - 宗教戦争、国家間覇権戦争、政治戦争
  - ウェストファリア以前: 封建制に基づく政治構造
- ウェストファリアによる近代国際システムの確立
  - 主権国家の原則

# 近代国際システムの歴史:15分 欧州協調の時代 〈1815~1914〉

- 欧州における勢力均衡と多国間協調
  - システムとしての安定性
  - 列強間の戦争は、現状変更ではなく現状維持を図る
  - 経済利益の追求
  - 社会の安定性
  - バランサーとしてのイギリス
- パクス・ブリタニカ
  - 覇権国家としてのイギリス
  - 産業革命・普通選挙・海軍力・交易網・金本位制

# 近代国際システムの歴史:15分 欧州協調の時代 〈1815~1914〉

- 産業革命

- 産業革命による経済ゲーム・チェンジャー
  - 収奪経済から交易経済へ
  - リカルドの比較優位と自由貿易
- 産業革命による軍事革命
- 産業革命による社会革命(労働者の都市移住と政治力)
- 世界経済の統合化(貿易・金融・移住)

- 民主化の第一の波

- 米国独立(戦争1775~1783年)・フランス革命1789年
- 欧州における民主化への闘争
- 英国における選挙法の改正と普通選挙の実現



# 近代国際システムの歴史:15分 欧州協調の時代 〈1815~1914〉

- 列強の興亡
  - オスマン帝国・オーストリアハンガリー帝国の衰退
  - イタリア統一 1860年
  - ドイツ統一 1871年 ⇒ 後発産業化と台頭
  - 米国の台頭
  - 日本の台頭（日清戦争1894年、日露戦争1905年）
- ⇒ 第一次世界大戦の主役が揃う

# 近代国際システムの歴史:15分 世界大戦の時代 〈1914~1945〉

- 第一世界大戦

- 頑強な同盟、力の変遷、バランスの亀裂が戦争に対して脆弱なシステムを作る
- 三国同盟:独・オーストリアハンガリー・伊(+オスマン)
- 三国協商:英・仏・露(+米・日)
- 長期の消耗戦
- 米国の孤立主義と介入による決着
- ボリシェビキ革命とソビエト連邦

# 近代国際システムの歴史:15分 世界大戦の時代 〈1914~1945〉

## 戦間期(1919ー1939)の陰

- ヴェルサイユ条約におけるドイツの処遇
  - ー 領土縮小と地位剥奪による、外交的屈辱
  - ー 戦後賠償と債務による経済の疲弊
  - ー ドイツ問題の未解決
- オーストリア・ハンガリー帝国とオスマン帝国の解体
- 1929年のブラックマンデー(株価暴落)
- 国際連盟と集団的安全保障の失敗(米国の孤立主義)

## 戦間期の陽

- 自由貿易の真骨頂と経済的相互依存
- ノーマン・エンジェル *The Great Illusion (Europe's Optical Illusion)*

# 近代国際システムの歴史:15分 世界大戦の時代 〈1914~1945〉

## 第二次世界大戦

- 経済紛争・政治紛争におけるExtremismの誕生
- 世界の二ブロック化
  - 枢軸国: 独・伊・日
  - 連合国: 米・英・仏・ソ
- 欧州戦線と太平洋戦線
- 原子爆弾投下と「核兵器・原子力」時代の幕開け
- 両大戦を接合して「全体主義に対する自由主義・民主主義の闘い」との見方
- 20世紀は「戦死の世紀」

# 近代国際システムの歴史:15分 冷戦の時代 〈1945~1990〉

- 社会主義ブロックの誕生
  - ソ連、東欧とその旧植民地諸国
  - ワルシャワ条約機構
  - コメコンによる経済統合の試み
- 資本主義ブロックの形成
  - 米国、西欧、ラテンアメリカ
  - 地域同盟:NATO, OAS, SEATO
  - ブレトンウッズ体制による経済システムの構築
- 紛争、危機、クーデタ
  - 冷戦の代理戦争としての地域紛争
  - ベルリン危機(1949)、キューバ危機
  - 相手ブロック政府転覆への謀略

# 近代国際システムの歴史:15分

## 冷戦の時代 〈1945~1990〉

- 「第三世界」の興隆
  - ア・アにおける脱植民地化
  - 新興国のソ連ブロック(社会主義)への親和性
  - 新興国による非同盟主義(両ブロック間抗争への反発)
- 冷戦期のフェーズ
  - 冷戦の形成期における対立・競争 (1945年~1960年半)
  - デタント (1960年半~1979年) アフガニスタン戦争
  - 新冷戦 (1979年~1991年)

# 近代国際システムの歴史:15分 冷戦後の時代 〈1990~Present〉

- ソ連の崩壊
  - ソ連経済と西側の経済成長
  - グラスノスチとペレストロイカによる国家統制の緩和
  - ソ連のアフガニスタン撤退(1989年)
- 民主化の第三の波
  - 南欧 → ラ米 → アジア → 東欧革命
- 湾岸戦争(1990年)
  - 集団的安全保障の成功例
- 国際協調の時代
  - 国連による、紛争介入が増加、限定的効果
- 米国の単極支配

# 近代国際システムの歴史:15分 冷戦後の時代 〈1990~Present〉

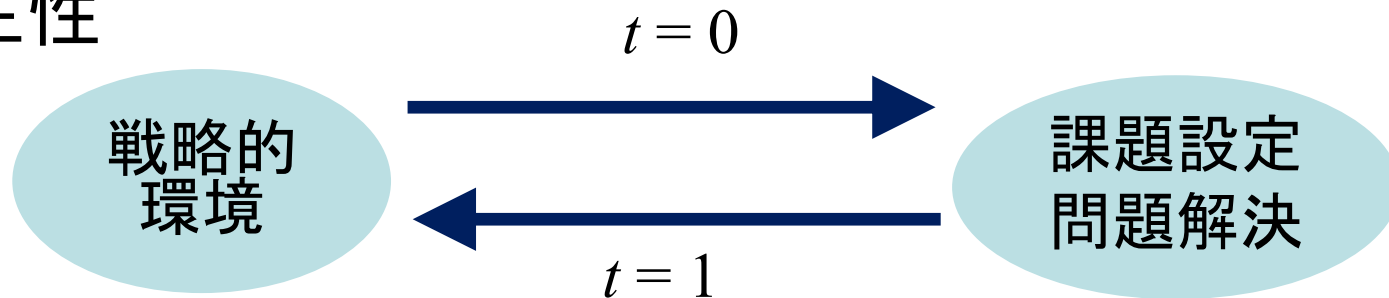
- インターネットの衝撃
  - 電子メール、Windows, MAC、ソーシャルメディア
- グローバル化
  - 経済統合の加速化、国際競争の加速化
  - フラット化した世界
- 規格化
  - 経済危機の「規格化」「グローバル化」
- 非伝統的力、ネットワーク型力の台頭
  - ソーシャルメディア
  - テロリズム



# 政治・歴史の規定要因

- 各時代における戦略的環境に直面
  - リーダーシップ: 社会問題を政治課題として提起(競争)  
(時代状況は客観的に存在しない。政治言説空間で構築)
  - 政治課題提起の成功には、ソリューションの抱合せが必須

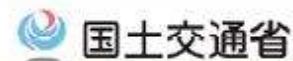
- 内生性



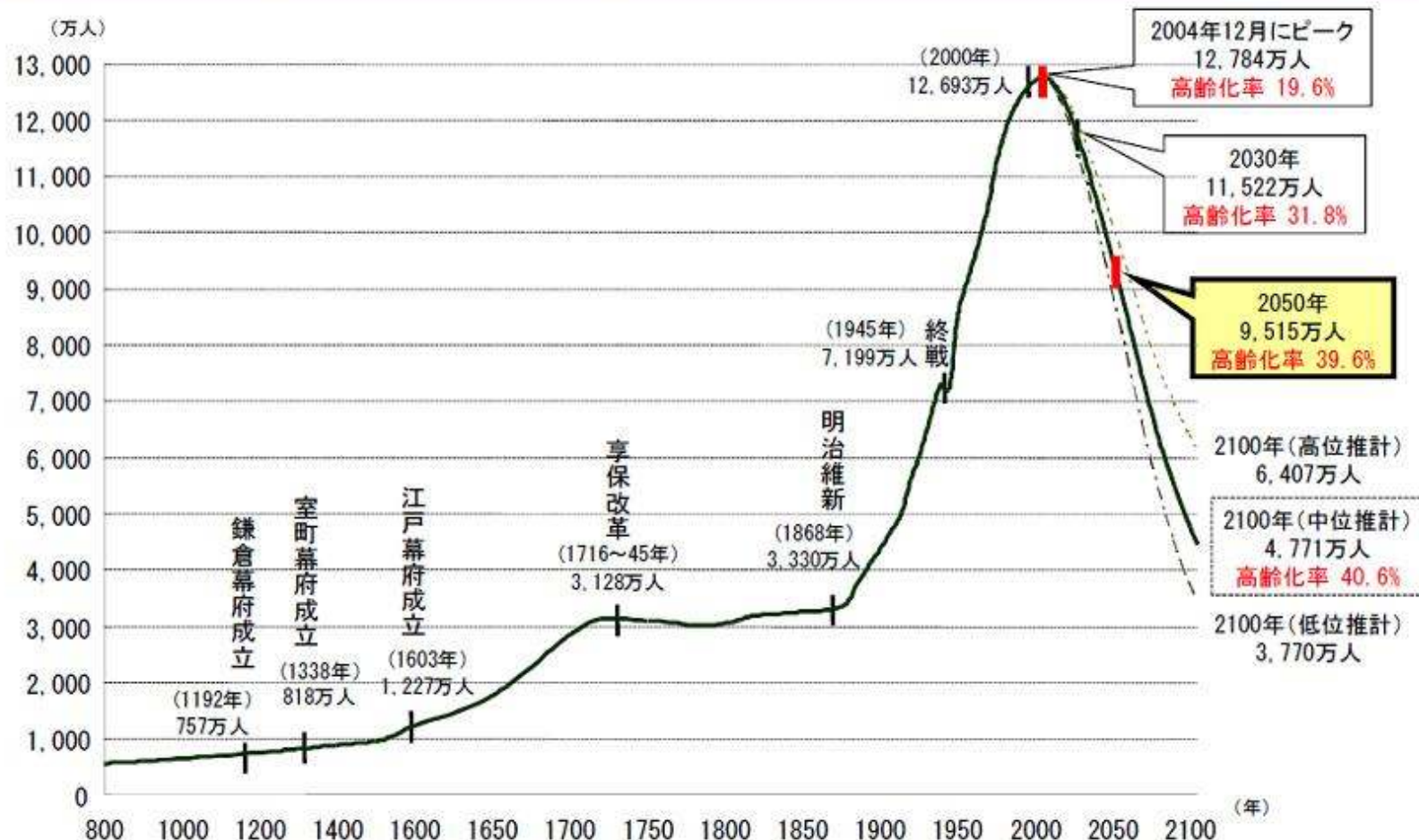
- 戦略的相互作用
  - 外的要因(自然災害、地理など)
  - 戦略的アクター(講義3で解説)

# New Challenge:

## 我が国の人口は長期的には急減する局面に



○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前（明治時代後半）の水準に戻っていく。この変化は千年単位でもみても類を見ない、極めて急激な変化。



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成